



花器 [百日紅の枯木使用]

美術部 佐々木 英雄



我が家の庭を鮮やかに彩ってくれたシンボルツリーで、私がとても癒された樹木です。

夏から秋にかけての花木で、公園、お寺、神社などに植栽されているので、皆様方にとってもなじみ深い樹木であると思います。花期は7~9月にかけておよそ百日もの間、長く咲き続け、花言葉は「雄弁」「愛嬌」「不用意」「潔白」「あなたを信じる」などがある。



木は1本、1本性質が異なる。右に曲がるもの、左に曲がるもの、木の自然な性質を、そのまま木工加工に活かすことが大事で、神社仏閣等は南側の柱は、節だらけ、ところが北側の柱は節がない。木は南側に枝が出て節ができる。従って節の部分を南向きに使用しているらしい。

我が家のサルスベリは、淡褐色の樹皮が変化して、白っぽい樹肌を見せ樹齢を重ね老木となり、樹形を留めたいと思い素描を試みたが、私と歩んだ時間を継続させるため、枯木となった老木の部位の枝、幹、根を利用し、枯木に花を咲かせて見たいと思い花器を作りました。

枝部 (40×42cm)

人と樹は、人類始まって以来の長い長いつながりが、あるように思われる。樹が年月を経て枝葉をのぼし、大木となるように人も年と共に、成長し良き大人になるように。



幹部 (28×30cm)

人は、より多くの他の人々に気(木)をつかい、良気(木)人類の発展を心がけ、大木の太い幹のように大人心意気で生きたいものである。



根部 (40×45cm)

木は目視出来る部分より、多くの地下の根等により支えられて生育している。同様に、人も非常に多くの人々に支えられ、また無数の関係関連の上に成り立っている。

